

令和5年度 学校マネジメントシート（最終報告）

学校名（ 木本高等学校 定時制 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○自分の良さを伸ばしながら、目標や夢の実現に向けて努力を続ける生徒を育成します。 ○地域に誇りを持ち社会に役立つ人を育み、「地域に信頼される学校」をめざします。
(2)	育みたい児童生徒像	○自分への自信と誇り、他者への思いやりの心と規範意識を持ち、学習に積極的に取り組む生徒。 ○地域に誇りや愛着を持ち、地域に信頼され、地域に貢献する力を持った生徒。
	ありたい教職員像	○目指す学校像の実現に向け、連携の意識と向上心を持ち、自分の良さを活かして仕事をする教職員。 ○生徒の状況を理解し、それぞれの生徒に合わせた一人ひとりを大切にする指導をする教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		○生徒・保護者 仕事や家庭と学校生活を両立しながら安心して学習し、学力と社会性を身につけ、高校卒業資格を得たい。 ○地域社会 すべての生徒が安心して学べる場を確保し、地域に貢献する人材を育ててほしい。 ○進路先 基礎学力、コミュニケーション力、自主性、規範意識を持った人材を育ててほしい。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		○保護者 学力と社会性を身につけ、高校卒業資格を取らせたい。 ○中学校 多様な生徒の学びの場として、一人ひとりを大切にする教育を行ってほしい。 ○地域社会 すべての生徒の学ぶ場を確保する意味でも、教育活動を継続してほしい。	○保護者 緊密な連絡・協力体制づくりに協力してもらいたい。 ○中学校 生徒に関する情報提供等、指導への支援、協力をしてほしい。 ○地域社会 外部講師、情報提供等、教育活動への支援、協力をしてほしい。
(3) 前年度の学校関係者評価等		・生徒が安全で安心して学校生活を送れるようにしてほしい。 ・木本高校定時制の魅力を地域に積極的に発信してほしい。 ・1人1台端末を積極的に活用し、授業改善を図ってほしい。	
(4) 現状と課題	教育活動	さまざまな課題、背景をもつ生徒が学んでおり、引き続き生徒一人ひとりに合わせた丁寧できめ細かい指導が必要である。また、他校からの転入生も数名おり、在学期間が短く、学校への帰属意識や仲間意識が低い生徒も多い。 命を大切にする教育と生活習慣の育成を起点にしながら、生徒の成長の基盤となる自己肯定感を高めていく必要がある。 生徒個々の状況把握に努め、一人ひとりの良さを引き出し伸ばしながら基礎学力の定着を図るとともに、安全・安心な学習環境の確保と集団への帰属意識・仲間づくりの取組もすすめる必要がある。	

	学校運営等	生徒、教職員ともに少人数で、生徒一人ひとりに合わせた教育活動を行いやすいが、集団として活動し、社会性を育むには工夫が必要である。 生徒一人ひとりの課題や背景がさらに多様化し、日々の状況把握と情報共有が必要不可欠であるため、教員定数を確保するとともに、生徒の変化に気づけるよう教職員の感度を高めていく必要がある。
--	-------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	○学習・修学意欲を高め、基礎学力の定着を図り、生徒の希望進路の実現をめざします。 ○学校や社会で生活するために大切な規範意識と社会性を育みます。 ○様々な教育活動を通して、本校への帰属意識と仲間意識が醸成されるよう働きかけます。
学校運営等	○生徒一人ひとりを大切にする教育活動を充実する体制をつくります。 ○地域との交流や地域の声を聞く機会を持つなど、開かれた学校づくりをめざします。 ○業務の効率化を図り、職員の健康管理面に配慮し、総勤務時間の縮減を図ります。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
命を大切にする教育と生活習慣の育成	【命を大切にする教育】 (1) 生徒一人ひとりの状況を把握し、教員間で共有します。 (指標：個人面談等の実施、会議等での情報共有) (2) 生徒の「命を大切にする心」を育みます。 (指標：講話、講演会等の実施) 【生徒指導】 (1) 挨拶を励行し、生徒の状況を把握するために、毎日の登校指導を行います。 (指標：毎日の登校指導の実施) 【学級指導】 (1) 生徒の心に響き、自身のあり方・生き方を考える人権学習をすすめます。 (指標：本音で語ることができる人権学習の実施) 【保健・安全】 (1) 健康について啓発をすすめるため、保健だよりを発行し、保健指導を行います。 (指標：保健だよりを年3回発行、集会等での講話) (2) 校内の安全面からの巡視を行います。 (指標：校内巡視の実施)	【命を大切にする教育】 ・個別面談を計6回実施 (4、7、9、11、12、3月) ・いじめ防止強化月間の取組 (11月) 【生徒指導】 ・毎日、全職員で登校指導を実施 【学級指導】 ・6/2 人権学習 「コミュニケーションの中の人権」 ・1/26 人権学習 「職場の中の人権」 【保健・安全】 ・保健だよりを計3回配付し、指導 (4、6、9月) ・集会での保健講話 ・保健講話(1/9)「デートDV」 ・全職員で毎時間校内巡視を実施	◎
キャリア教育の充実	【進路指導】 (1) 生徒一人ひとりの適性や希望を考慮しつつ、小規模校の強みを生かして、きめ	【進路指導】 ・進路担当がハローワーク担当職員と情報交換	△

	細かな進路指導を行います。 (指標：ハローワーク・全日進路指導部と連携し、個別面談を実施) (2) 生徒の職業意識を高めるとともに、求人情報の提供や進路相談を通して、就労への意識を高めます。 (指標：求人広告の掲示、ハローワーク・全日進路指導部との連携)	・正社員に限らず、多様な働き方があることを紹介し、高校卒業後のライフプランを考える。	
学習指導の充実	【教科等指導】 (1) 生徒の基礎学力の定着のため、教育課程や授業内容の工夫と改善を図るとともに、適切な学習目標を生徒と共有しながら、目標達成のための指導を行います。 (指標：公開授業、教員間の授業見学の実施) (2) 単位制・定通併修などの制度について、生徒・保護者への周知を図ります。 (指標：説明会や個別面談を通じた説明の実施) (3) 「わかる授業」をめざし、1人1台端末の活用をテーマにした授業改善の取組を行います。 (指標：生徒ニーズアンケートの計画的実施による結果分析・共有と改善)	【教科指導】 ・授業公開週間 11/13～17 のべ16人（中学生、保護者、中学校教員） ・個別面談の際に、定通併修制度について説明し、希望の聞き取りを実施 ・生徒ニーズアンケートを実施し、結果分析と今後改善点を共有（7、12月）	○
帰属意識の育成	【教科等指導】 (1) 総合的な探究の時間や学校行事等を活用し、地域に対する愛着を育むとともに、本校生徒としての誇りを育てます。 (指標：学校行事等に参加する生徒の増加) (2) 主体的、対話的で深い学びをすすめ、ともに学ぶ仲間を大切にする態度を養います。 (指標：授業でペアワーク、グループワークを行う)	【教科指導】 ・熊野古道遠足（4/22） ・総合的な探究の時間で地域学習（5/12） ・1人1台端末を活用し、他の生徒と意見を交流する。（Jamboard）	○
改善課題			
少人数の強みを生かし、生徒一人ひとりの理解をすすめ、教職員間で情報共有することにより、生徒は安心して学校生活を送ることができている。生徒ニーズアンケートから、生徒は高校卒業資格の取得を第一にしているところであるが、1人1台端末の活用等により学習意欲を高めるとともに、キャリア教育の推進により卒業後の進路についても考え、卒業までに身につける資質・能力についても意識させたい。			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員の 資 質 向 上・チー ムワーク の向上	(1) コンプライアンス意識向上の取組を進めます。 (取組状況の指標: 国や県からの通知や新聞記事等を回覧し、教職員間で対話を行う) (指標: 毎回の職員会議で校外の事例を共有) (2) 教員間の情報交換会を実施します。 (指標: 毎日の打合せ、職員会議等で情報交換を実施)	・コンプライアンス研修を 4 回実施 (5/25、10/16、2/1、2/8) ・毎日、教育に関する新聞記事等を切り抜き回覧	◎
地域との 信頼関係 の深化、 情報提供 による信 頼の構築	(1) 中学校との連携を深め、地域へ積極的に情報発信します。 (指標: 新入生の出身中学校訪問等の実施) (指標: 熊野教育支援センター、子ども家庭総合支援室との連携) (指標: 授業公開、学校見学会の実施)	・新入生の中学校訪問 (4 月当初、1 年担任・教頭) ・ケース会議を 2 回実施 (5/16、3/19)	○
保護者と の連携、 学校の帰 属意識の 育成	【個別面談】 (1) 個別面談を計画的に実施します。 (指標: 担任による個別面談の実施)	・個別面談を計 6 回実施 (4、7、9、11、12、3 月)	○
働きやす い職場環 境	(1) 業務の効率化を図り、休暇取得を促進し、総勤務時間を縮減します。 (指標: 夏季休暇以外の特休及び年休取得 (4~1 月) の合計日数の平均 16 日以上) (指標: 毎日の定時退校) (指標: 60 分以内に終了する会議の割合 100%) (指標: 時間外在校等時間が年 360 時間を超える教職員数 0 人) (指標: 時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員の延べ人数 0 人) (指標: 1 人当たりの月平均時間外在校等時間 30 時間以下)	・年休取得促進週間を実施 (6、7、9、12、3 月) ・年休等取得の合計日数の平均 16 日 ・職員会議 (12 回中) 12 回、60 分以内に終了 ・時間外在校等時間が年 360 時間を越える教職員数、時間外在校等時間が月 45 時間を越える教職員数 0 人	◎

改善課題

コンプライアンス研修においては、教職員としての経験年数に応じて、それぞれの教員生活をふりかえり、積極的に意見を交換することにより、教職員一人ひとりのコンプライアンス意識を向上させることができた。また、授業公開やケース会議の開催など、中学校や関係機関と連携することができた。課題としては、定時制の魅力やさまざまな取組を SNS 等で情報発信していきたい。

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次へ の取組方向	・生徒が安全で安心して学校生活を送れるようにしてほしい。 ・中学校や関係機関等の連携を充実させてほしい。 ・木本高校定時制の魅力を地域に積極的に発信してほしい。
-----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	生徒一人ひとりの習熟度に応じた学習を可能にし、生徒が主体的で対話的で深い学びを実現できるようにする。また、教育活動全体をとおしてキャリア教育を推進し、生徒が各自の進路希望を実現できるように必要な資質・能力を養う。
学校運営につ いての改善策	教職員間での対話を大切にし、情報共有を積極的に行うことにより、生徒一人ひとりについての理解をすすめる。また、SNS等を活用し、学校の魅力を地域に発信することにより、地域における学びの保障につなげる。